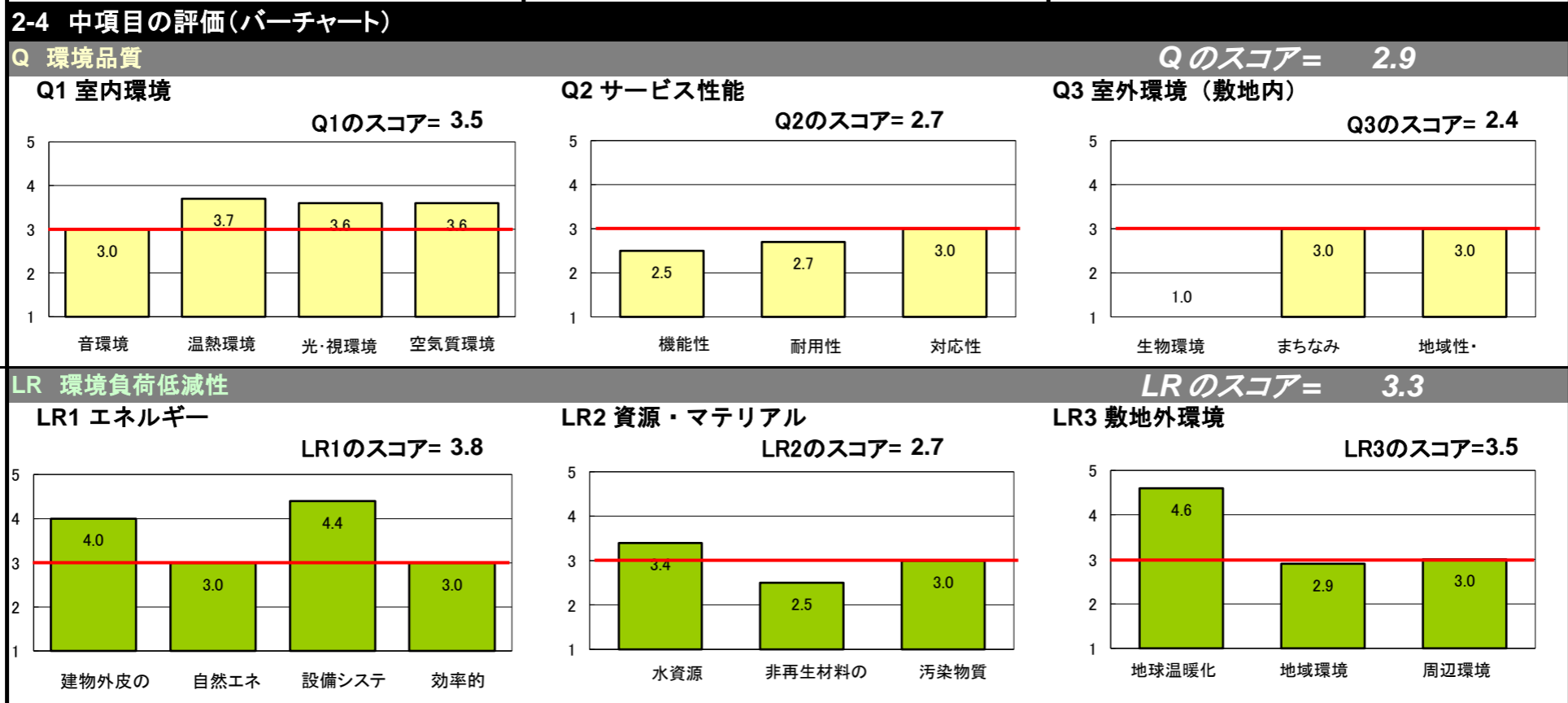
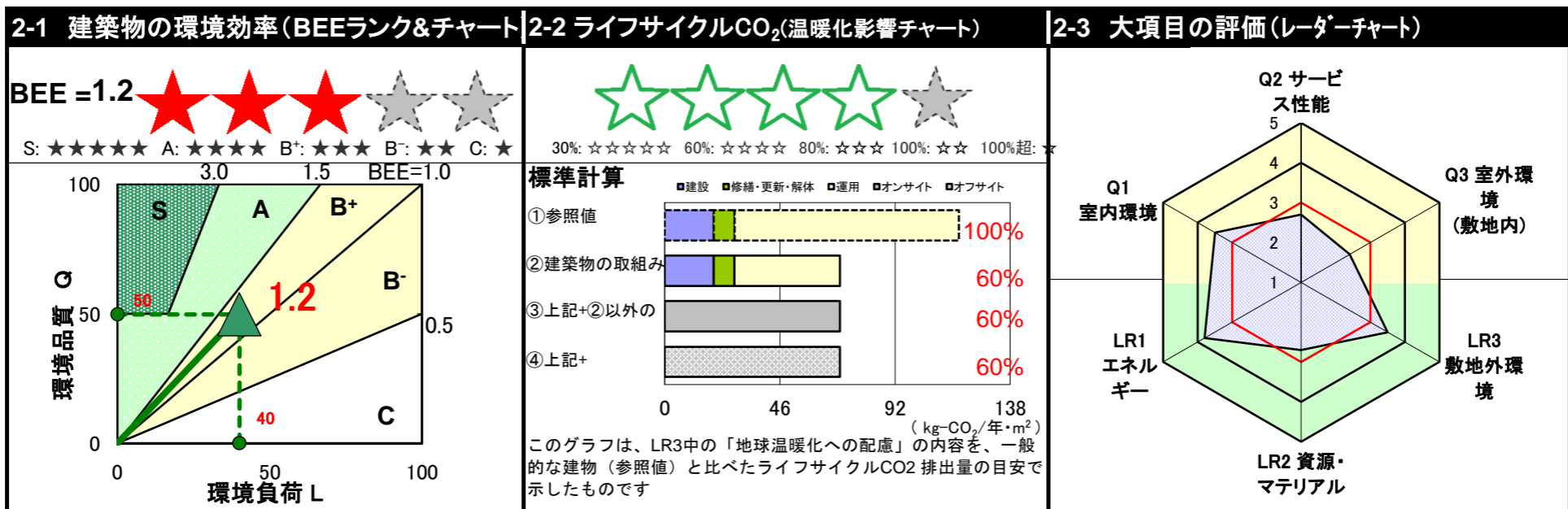
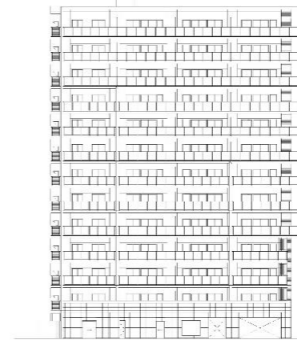


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)春日井市中央通一丁目マンション	階数	地下0階地上13階
建設地	愛知県春日井市中央通一丁目22番	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域、都市機能誘導区域内、居住誘導区域内	平均居住人員	180人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年2月 予定	評価の実施日	2020年6月25日
敷地面積	793 m ²	作成者	澤田 勉
建築面積	385 m ²	確認日	2020年6月26日
延床面積	3,719 m ²	確認者	澤田 勉



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.6</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>89.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.6</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル					0.1	3.0	0.15	3.1	3.1	1.00	3.0
1.2 遮音					0.5	3.0	0.50		3.2	0.50	
1 開口部遮音性能						3.0	1.00		3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				Lr-45		3.0	-		3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-		4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-		3.0	0.20	
1.3 吸音						-	-		-	-	
2 温熱環境											
2.1 室温制御					0.3	2.4	0.35	4.0	4.0	1.00	3.7
1 室温				断熱等級4	0.5	3.0	0.50	4.0	4.0	1.00	
2 外皮性能					3.0	3.0	0.63		-	-	
3 ゾーン別制御性					3.0	3.0	0.38		4.0	1.00	
2.2 湿度制御					3.0	3.0	-		-	-	
2.3 空調方式					3.0	3.0	0.20		-	-	
					3.0	1.0	0.30		-	-	
3 光・視環境											
3.1 昼光利用					0.2	2.7	0.25	3.8	3.8	1.00	3.6
1 昼光率				開口部を大きく設けた	0.3	4.2	0.30	4.0	4.0	0.40	
2 方位別開口					3.0	5.0	0.60		5.0	0.50	
3 昼光利用設備						-	-		3.0	0.30	
3.2 グレア対策					0.3	2.0	0.30	4.0	4.0	0.40	
1 昼光制御				バルコニー底+カーテン	5.0	2.0	1.00		4.0	1.00	
3.3 照度					3.0	1.0	0.15		3.0	0.20	
3.4 照明制御					3.0	3.0	0.25		-	-	
4 空気質環境											
4.1 発生源対策					0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00	3.6
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆を使用	0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63	
4.2 換気					0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38	
1 換気量					3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
2 自然換気性能					3.0	3.0	-		3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
4.3 運用管理					-	-	-		-	-	
1 CO ₂ の監視					3.0	3.0	-		-	-	
2 喫煙の制御					3.0	3.0	-		-	-	
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ					0.4	2.4	0.40	2.6	2.6	1.00	2.5
1 広さ・収納性					0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60	
2 高度情報通信設備対応					3.0	3.0	-		3.0	-	
3 バリアフリー計画		独自			3.0	3.0	-		3.0	1.00	
1.2 心理性・快適性					0.3	1.0	0.30	2.0	2.0	0.40	
1 広さ感・景観(天井高)					3.0	3.0	-		3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					3.0	3.0	-		-	-	
3 内装計画					3.0	1.0	1.00		1.0	0.50	
1.3 維持管理					0.3	3.0	0.30		-	-	
1 維持管理に配慮した設計					3.0	3.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.3	2.7	0.31		-	-	2.7
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					0.4	3.0	0.48		-	-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.80		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	2.7	0.33		-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.23		-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②				3.0	0.23		-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.09		-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.08		-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.15		-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.23		-	-	
2.4 信頼性					0.1	2.0	0.19		-	-	
1 空調・換気設備					3.0	3.0	0.20		-	-	
2 給排水・衛生設備					3.0	2.0	0.20		-	-	
3 電気設備					3.0	1.0	0.20		-	-	
4 機械・配管支持方法		②			3.0	1.0	0.20		-	-	
5 通信・情報設備					3.0	3.0	0.20		-	-	

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	3.1	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.2	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	②	-	3.0	-		4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	-		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	4.0	0.50	-	-	-	
									緑地を適度に設けている
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			3.0	4.4	0.33	-	-	-	4.4
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	-	-	-	-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.7
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	1.00	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.5	0.63	-	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	3.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	1.00	-	-	-	
3	冷媒		3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		①	-	4.6	0.33	-	-	-	4.6
2 地域環境への配慮			0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			-	-	-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.67	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.3	2.7	0.33	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	-	-	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)春日井市中央通一丁目マンション

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.6	0.10	
② 資源の有効活用				2.6
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:89.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)春日井市中央通一丁目マンション

計画上の配慮事項	
総合	省エネルギー(断熱性能、LOW-Eガラス採用等)により環境に配慮した。
Q1 室内環境	開口部を大きく取り十分な採光を確保した。
Q2 サービス性能	住戸の階高を2.91m以上とし空間にゆとりを持たせた。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺環境に配慮し住戸分の駐車場を確保した。
LR1 エネルギー	共用部分の照明器具をLEDを使用し消費電力を抑えた。
LR2 資源・マテリアル	節水型便座や水栓を採用した。
LR3 敷地外環境	駐車、ミニバイク、駐輪スペースを敷地内に確保した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。